



広報

なは

市民の友

第606号 毎月1回発行

2001年(平成13年)

7月

発行・那覇市 編集・秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 •印刷(株)池宮商会

みんなのラジオ
ラジオ広報
「那覇市民の時間」毎週日曜日
RBC・午前9時15分から25分まで
那覇市
ホームページ
<http://www.city.naha.okinawa.jp/>



主な紙面

- (2面) 家庭ごみの有料化について広聴会を開きました
- (3面) 7月29日(予定)参議院議員通常選挙の投票日
- (4面・5面) 夏やすみ おもしろことにチャレンジだあ!
- (6面) ISO9001 取得を宣言
- (7面) 情報PACK

今も心につながる交流のレール

思い出のD51前で 29年目の再会

市内与儀公園にその雄姿を横たえる「D51型蒸気機関車」。1973年に鹿児島から海をわたって那覇に到着したこのD51は全国の国鉄職員の思いが込められています。

先頃、その「夢の贈り物」に尽力した、元国鉄職員の山田辰二郎さんと妻の東子(はるこ)さんが与儀公園を訪れ、なつかしい顔ぶれと再会しました。

1972年(本土復帰の年)7月。鉄道百年記念事業で市内各小学校から72名が北九州市の国鉄職員の家庭にホームステイし、現地の子どもたちとの交流や鉄道体験などをしました。

その際、「沖縄にも機関車があったら」とのひとことに、山田さんと同僚らは「沖縄へD51を贈る会」を結成。全国の国鉄職員に募金をよびかけ、翌年、みごとに実現したので。

当時の式典では実際に石炭を焚き、黒煙をもくもくあげ、汽笛を鳴らし、子どもから大人まで、はじめてみる本物の機関車にふれました(円内写真)。

あれから、29年の歳月が流れ、思い出のD51前で当時の子どもたちと山田夫妻が笑顔で再会。

セシモニーで感謝の花束が贈られたその瞬間、後ろで見守るD51のなつかしい汽笛がそれぞれの胸に「ポー」と響きました。

世界遺産の 周辺から



那覇の文化財①

国指定名勝
伊江殿内庭園

(いえどうんちていえん)

世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録された文化遺産の中に、唯一庭園として「識名園」が含まれています。かつて、琉球王国として栄えた歴史と文化に育まれ「琉球庭園」と呼ばれる独自の庭園文化が華開きました。

「識名園」にも随所にその特徴をかいま見ることが出来ますが、国内では他に類を見ないのが、「伊江殿内庭園」です。

自然の琉球石灰岩の岩山を活かし、巧みに大小の奇石をはめて、築山をつくっています。その築山の下方には、岩を削って段々に雲形の池をつくってあります。岩山の半ばには、龍の頭を象った吐水口があり、そこから注がれた水が、カスケード式に

段々の池を下っていく仕組みになっています。

このような形式の池は、国内では他に見られないものです。

また、龍頭の向かいに置かれた岩は、虎を表現しており、かなり中国庭園の影響を受けています。

岩山には、向かって右のほうから「喜」「巢雲」「漱石山房」「常」の文字が浮き彫り(陽刻)にされています。これらの書跡は、一八〇〇(嘉慶五)年、尚温王の冊封使として渡来した、正使趙文楷、副使李鼎元等によるものと伝えられています。

琉球庭園には、このように文字を庭園に配する例がありますが、国内では外に鹿児島県の「仙巖園」にみられるのみです。

さて、伊江殿内は、親・子・孫と続いて三司官に就くなど、首里の土族の中でも名家中の名家として知られ、国王はもとより、冊封使も訪れた記録が残されています。

一八世紀の後半から一九世紀のはじめにかけて、伊江親方朝睦(唐名/向天迪)が、

(那覇市教育委員会
文化財課)

